

## 第8回松本市基幹博物館建設検討委員会展示専門部会 会議要旨

### 1 日 時

平成31年3月25日（月）午後1時30分～午後4時30分

### 2 場 所

松本市立博物館2階講堂

### 3 参加委員

菊池健策委員、後藤芳孝専門員、櫻井多美江専門員、笹本正治委員、関悟志専門員、原明芳専門員（50音順）

### 4 事務局

博物館長、博物館事業担当課長ほか

### 5 次第

#### (1) 開会

#### (2) 部会長あいさつ

#### (3) 議題

展示設計の最終案について

#### (4) その他

#### (5) 閉会

### 6 会議事項（要旨）

（事務局側の回答要旨は「→」の後に掲載、事務局側の回答に対し追加意見・質問があったものや委員の発言を受け別の委員が回答したものについては「⇒」の後に掲載している。）

#### (1) 「展示設計の最終案について」のうち概要版資料について

##### ア ウィンドーギャラリーについて

- ・ 市民活動で展示例に挙げている「小中学校の社会見学感想」をここで展示することは、個人情報や不特定多数の通行人に公開することになるため相応しくない。施設内での展示であれば問題ない。（専門員）
- ・ 常設展示を紹介する展示をしてはどうか。通行人へPRにつながり来館者増になるのでは。（専門員）
- ・ 展示更新をどのように計画しているか。常設展示よりも更新性が求められるため大変になるだろう。学芸員の負担を少なくする方法も検討されたい。（委員）
  - そもそも建築の意匠として展示棚を作るため、展示していない状態でも意匠的に違和感がないと考えている。
  - ⇒ 建築で作る場合は建築者の作品となり、意匠保護のため展示ができなくなる

こともある。事前に十分調整されたい。(委員)

- ・ シャッターなどで隠せるようにしてはどうか。(専門員)
- ・ 柱間ごとにタペストリーを設置し、展示がないところはそれを下ろしてはどうか。(専門員)

#### イ 導入展示について

- ・ 手まり照明は安全性やランニングコストは確認できているか。(委員)
  - LED照明の耐用年数は確認したが、それ以外は確認できていない。いずれにしる、LED照明が切れた場合は躯体全体を交換することになり業者対応となる。その費用は確認していない。
  - ⇒ 人の溜まる場所に設置されるため、地震で揺れた場合のLEDの強度など安全性を十分に確認されたい。(委員)
- ・ 手まり照明の色はどうか。(専門員)
  - 実物のようにカラフルな色彩にするとけばけばしくなることから、白ベースとしている。
  - ⇒ 施設の象徴物とするなら、もう少し色彩があってもよいのでは。(専門員・委員)
- ・ 県立歴史館は大きな壁面があるものの、カーテンレールなどの装置がなく利用できない。大きな壁面に印象的なものを展示できると良い。(委員)
  - 壁面をどのように活用するは内部でも課題として認識している。きれいな陶板で飾ってはどうか。
  - ⇒ 県立歴史館にも陶板はあるがあまり注目されない。変化できるものでなくてはいけない。(委員)
- ・ 九州国立博物館では、エントランスに大きな山鉾を展示している。毎年山鉾を変えることで市民との関わりができ、展示更新にもなっている。(委員)
- ・ 松本で言えばサンクロウや御柱などになるだろうが、これらを展示するには支持具が必要なる。今回はその場所はない。(委員)
- ・ 1階から壁面がどのように見えるのかシミュレーションをして、その見え方次第で活用方法が変わってくるのではないか。(専門員)
- ・ 松本歴史年表の更新をどう考えているか。(委員)
  - 歴史年表と書かれているが、実際は市勢概要を展示するものである。  
合併など市勢の大きな変化がない限り更新性は低いと考える。そのため、内照式の固定したパネルを想定している。

#### ウ 常設展示の考え方・動線について

- ・ 色のもつイメージを大切に、山のテーマを緑にするなど大テーマごとの色イメージを検討されたい。(委員)
- ・ 更新性のあるシステム化した什器と書かれているが、どの程度のものなのか。(委員)
  - 取り外し可能なモニターやパネル位置を変更できるなどを想定している。
  - ⇒ 結局は展示制作時の業者に依頼しないと更新できなくなるので、よくよく検討されたい。
- ・ 常設展示室のなかに、探求の井戸以外で休憩できる場所はあるのか。高齢者にとっては、ところどころに座れる場所があるとありがたい。(専門員)

→ 備品として座れるものを設置することを検討したい。

エ 各展示テーマについて

- ・ 城下絵図ビューアーで使用する絵図データは、松本城管理事務所のものを使ってもらいたい。(専門員)
- ・ 常設展示では松本城築城以前については全く触れられていない。考古博物館で展示するということだろうが、来館者はここに来ればすべてが展示されていると思ってしまう。分館や文化財などと基幹博物館の役割・展示領域の分担を、来館者に分かりやすく説明する必要がある。(委員)
- ・ 展示資料数が多いと感じられるが、来館者が思わず写真を撮りたくなるような資料は城下町ジオラマくらいだろう。若者向けのインスタ映えは期待できない。(委員)

→ 宝船や蒸気ポンプなど劣化のみられる大型資料は、このままでは古さばかりが目立ってしまうため、彩色などの補修を施しきれいな状態で展示したいと考えるがいかがか。

⇒ 宝船の場合、市重要文化財に指定されており、文化財課に申請をして文化財としての保存修理となる。色鮮やかな状態にできるかは分からない。

レプリカを新たに作成しても良いのではないか。(委員)

- ・ 重要文化財の孔雀文馨が常設展示に出てこない。展示テーマに沿わず致し方ないと思うが、もっとも価値がある資料なので企画展などでの展示を検討されたい。(専門員)

(2) 「展示設計の最終案について」のうち設計図面について

ア 全体について

- ・ 子ども解説は用語を容易にするだけでなく、文書量も子ども向けに少なくしたほうがよいのでは。(専門員)
- ・ 県立歴史館では、教員が子ども向け解説を作ったが上手くいっていない。原稿を監修してもらえば、教員ではなく保護者のほうがよい。(委員)
- ・ 視覚障害者にとって点字解説はありがたいが、それがあつ場所までたどり着けない。そこまで誘導する方法を検討されたい。(専門員)

イ 造作図について

- ・ 常設展示室の展開図でパネルの配置が明らかになったが、やや多い印象を受ける。パネルが多いと展示制作時の職員の負担も大きくなるため留意されたい。(委員)
- ・ 展示ケースについて、キャスターを付けずにしても動かした際に少しずつ歪みが出てしまう。その際に、東京の業者でしか修理できないとなると時間と費用がかかってしまう。故障時に地元で対応できるようにされたい。(専門員)
- ・ ステージユニットのガラスケースは、軽すぎると来館者に開けられる恐れもあるため、固定方法を確認されたい。(委員)
- ・ 城下町ジオラマでは、右側に解説パネルやモニター、双眼鏡が集められており、混雑するのでは。左側にも分散してはどうか。(専門員)
- ・ 特別展示室の展示ケースは、常設展示室と同じ設えにして融通が利くようにされたい。(専門員)

- ・ 城下町ジオラマのもととなる絵図はいつのものか（委員）
  - 享保13年のものを想定している。その時代の建築物を示す資料が少なく苦慮している。
  - ⇒ 絵図の年代に合せた建築物の復元はとても大変な作業となるだろう。（委員）
- ・ ジオラマの建物と人物ともに1／300とするのか。（専門員）
  - 街並み再現を主とするため、建物は1／300を想定している。人物は、1／200～250の範囲で、人の集まりが表現できる大きさとしたい。
- ・ 商家の看板を立てる演示具について、上下で挟んで固定する設計になっているが、使われていた当時は挟んで掲げていたのではない。しっかりと考証して来館者に誤解を与えないような展示方法を検討されたい。（委員）

#### ウ グラフィック図について

- ・ 常設展示室のプロローグテーマビジョンのイラストアイコンは、このままでは展示テーマを想起できない。イラストのデザインも業者任せではなく博物館主導で検討されたい。（委員）

#### エ 映像コンテンツ

- ・ 松本まるごとビジョンのスポット候補地は、旧市が多く合併地区が少ない。地域間のバランスが必要ではないか。（委員）
- ・ 城下町ジオラマのウォークスルー映像について、「大名行列登城ルート」とあるが、大名は城内に住んでいるため「登城」とはいわない。「参勤交代ルート」とする場合も、時代によって、南を通る場合と北を通る場合があるため注意が必要である。（専門員）
- ・ 城下町ジオラマのウォークスルー映像の更新はどのように考えているか。
  - 現時点で更新を想定していない。

#### オ 展示照明・コンセントについて

- ・ 常設展示室と特別展示室のコンセント配置が、現在のケース配置に合せたものになっている。展示更新の際にケースの位置が限定されてしまうため、より広範囲設定してはどうか。（専門員）

#### カ その他

- ・ 概要版も図面も文言の不統一が見られる。市民や業者に公開することを念頭にもう一度確認されたい。（委員）

#### キ 集約

- ・ 反映できる意見は展示制作の段階で可能な限り反映することとし、設計の最終案を承認するというところでよろしいか。（委員）

⇒ 全委員了。

#### (3) その他

- 管理運営の検討も進めている。指定管理者制など直営以外の運営方法も含め幅広く検討したい。
- ⇒ 先行事例をよく研究したうえで、学芸員が活動しやすい体制にすることが重要である。（委員）